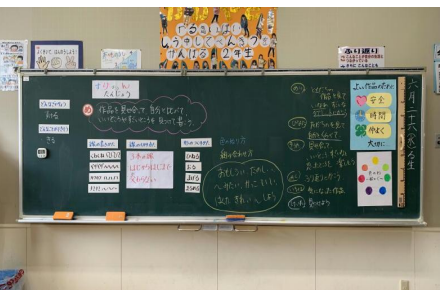
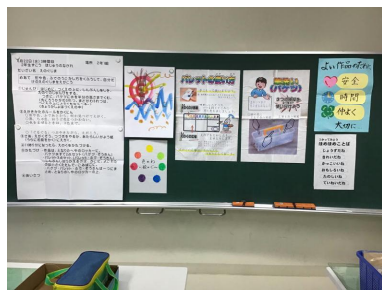


# K小中学校 U先生のあたりまえ

◇本時のめあてや制作の流れ（時間配分）、制作のポイント、活動のルールが分かるように、黒板に言葉や写真などを掲示している。

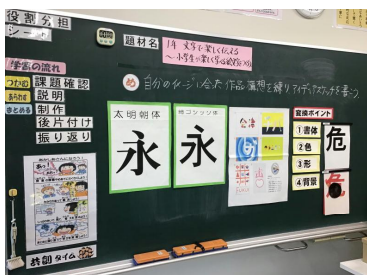
題材との出会いは、小学校であれ中学校であれ、とても大切なものです。そこで感じたワクワク感や作ってみたいという思いが、児童生徒の制作意欲だけではなく、個々のイメージを膨らませ、想像力・創造力を膨らませ広げてくれます。しかし、児童生徒と考えためあてや本時の手順などをみんなで読み合わせても、いざ制作に入ると手順や用具、材料の使い方が分からず、どうすればよいか戸惑っている児童生徒をよく見かけます。ほとんどの児童生徒は最初の説明と板書を確認しながら制作を進めているので、困り感をもっている児童生徒とは、板書を一緒に確認しながら個々に対応します。このような説明の時にも板書を活用します。私は活動時間内になるべく全員に声をかけるようにしてはいますが、時にはそっとしておいた方がよい児童生徒や、友だちとのやりとりの方がよさそうな児童生徒もいるので、そこを見極めながら机間指導をしています。

すっきりと大切なことだけがある黒板は、制作の心強い手がかりになります。



◇自校の特色を生かし、小中連携の授業づくり

小中の児童生徒は玄関や廊下で互いに顔を合わせるだけではなく、始業式・終業式や運動会などの行事の他、小中合同委員会が企画した活動でも触れ合っています。そこで、私は行事だけではなく、授業でも何か関われないかと考えました。例えば中学1年生では、『小学生が楽しく学べる絵文字を考えよう』という絵文字をデザインする題材にしました。相手意識や目的意識を持って制作しています。完成作品は小学生に鑑賞してもらい感想を中学生に伝えていきます。以前は紙に書いてもらっていました。ICTを活用してロイロノートでの提出を考えています。また、今年小学校が150周年を迎えます。そこで、中学生には班ごとに150の数字をデザイン化し、マス目用紙いっぱい、数字や学校や地域に因んだものを好きなように描いてもらいました。その後、小学生には色を塗ってもらいました。生徒に伝えたことは『小学生が塗りやすいように形を考えてください。』小学生には『見た人が見やすいように、色の組合せを考えてください。』共通して伝えたことは、『友達と相談して制作を楽しんでください。』楽しくなければ図工・美術ではないと思います。かく言う私が一番楽しんでいきます。



よい作品は時間・空間・安全・安心・材料の保障が大切だと思っています。